

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：コンテナ露地栽培に適した新規導入樹種の特性			
〔要約〕シナアベリア等新規導入 19 樹種は、コンテナ露地栽培が可能である。また、トキワマンサク、トゲナシピラカンサ「オレンジシルク」、ヒイラギナンテン「コンヒューサ」、トムソンヅタ、リオニア・マリアーナの 5 樹種は挿し木による増殖が容易である。			
キーワード [※] 緑化樹、コンテナ栽培、露地			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・生産技術部・花植木研究室 協力機関 なし		
実施期間	2009年度～2011年度		

〔目的及び背景〕

ガーデンセンター等で取り扱われる緑化樹のうち、他では入手困難な新規導入樹種や、コンテナ栽培等の小型サイズのものには人気があり、堅調な需要がある。しかし、新規導入樹種の大部分は、種苗商や先進的な生産者が独自で輸入し、我が国での栽培方法に関する情報がないまま生産現場に導入されている。そこで、新規導入樹種の生育特性、消費者ニーズの高いコンテナ栽培への適性、増殖方法を明らかにし、生産者が導入する際の指標とする。

〔成果内容〕

- 1 ゴルドニア・ラシアンサス等 24 樹種のコンテナ露地栽培における開花期や花色、特性は表 1 及び表 2 の通りである。
- 2 24 樹種中、ゴルドニア・ラシアンサス等 5 種は露地で越冬が困難、もしくは障害が発生する（表 3）。
- 3 1、2 の結果より、コンテナ露地栽培に適した新規導入樹種は露地での越冬が困難な 5 種を除いたシナアベリア等 19 樹種である（表 3）。
- 4 トキワマンサク等 4 樹種の挿し木は 7 月に、トムソンヅタは 12 月に行うと容易に発根する（表 4）。

〔留意事項〕

本情報は千葉市緑区における露地栽培の結果に基づくものであり、開花期及び越冬性は栽培地域によって異なる。

〔普及対象地域〕

県内全域

〔行政上の措置〕

〔普及状況〕

[成果の概要]

表1 新規導入樹種の花色及び開花期

常・落葉	樹種名	鉢直径 (cm)	花色	開花期
常緑樹	ゴルドニア・コンギエンシス	15	白	9月中旬～12月上旬
	ゴルドニア・ラシアンサス	15	白	7月中旬～9月中旬
	シナアベリア	18	白	7月上旬～9月上旬
	トキワマンサク (絞り)	18	薄黄に赤	4月中旬/8月中旬～9月中旬
	トゲナシビラカンサ「オレンジシルク」	18	白	5月上旬～5月下旬
	ヒイラギナンテン「コンフューサ」	24	黄	10月上旬～11月中旬
	ビワ「長崎一才」	18	白	10月上旬～11月下旬
落葉樹	エゾウワミズザクラ	18	薄ピンク	4月中旬～4月下旬
	黄金ショウキウツギ	15	薄ピンク	4月下旬～5月中旬
	カシワバアジサイ「パティオピンク」	18	白～薄ピンク	5月下旬～6月中旬
	カシワバアジサイ「ピーウィ」	18	白	6月上旬～6月下旬
	ガビサンイヌビワ	15	－	7月上旬～8月上旬
	サクラ「アーコレード」	18	薄ピンク	3月下旬～4月中旬/10月上旬
	トキワミツタ	18	白	4月下旬
	トムソソツタ	15	白	5月下旬～6月下旬
	ナナコバナ	15	白	8月下旬～10月上旬
	ハシバミ「ローテゼラーナス」	18	－	－
	ハナスオウ (咲き分け)	18	白もしくは赤	4月上旬～4月下旬
	ハナナシ「キャピタル」	24	白	3月下旬～4月中旬
	ヒメレンギョウ「ボークルドール」	15	黄	4月上旬～4月中旬
	ブータンミズキ	18	薄黄緑	3月上旬～4月上旬
	マンサク「バージニア」	18	黄	10月中旬～11月下旬
	ヤマブキ「チバゴールド」	24	黄	4月中旬～4月下旬
	リオニア・マリアーナ	18	白	5月上旬～5月下旬

表2 新規導入樹種の特徴

常・落葉	樹種名	特性
常緑樹	ゴルドニア・コンギエンシス	直立性の常緑低木。ラシアンサスに比べ花が大きく、直径は7～8cm。
	ゴルドニア・ラシアンサス	直立性の常緑低木。ツバキの近縁種で、直径5cmほどのツバキに似た花を咲かす。
	シナアベリア	開張性の半常緑低木。開花期間が長い。
	トキワマンサク (絞り)	直立性の常緑低木。薄黄色に赤色が入る絞り咲きだが、発色はやや不安定。春と秋に開花する二季咲き性。
	トゲナシビラカンサ「オレンジシルク」	直立性の半常緑低木。散房花序で花着きが良い。開花後、鑑賞性のある鮮やかな赤い果実を着ける。枝に棘がなく、剪定等の管理をしやすい。
	ヒイラギナンテン「コンフューサ」	直立性の常緑低木。羽状複葉の細長い葉を茂らせる。枝の先端に花穂を形成し、12月頃に紫色の果実を着ける。
	ビワ「長崎一才」	直立性の常緑低木。結実が良く、6月上旬頃に果実が黄熟する。食味が良い。
落葉樹	エゾウワミズザクラ	直立性の落葉低木。円柱状の総状花序を着ける。花形はサクラに似ている。9月頃から落葉が始まる。
	黄金ショウキウツギ	開張性の低木。漏斗状の花冠を持った小花を多数つける。10月上旬に紅葉する。
	カシワバアジサイ「パティオピンク」	直立性の落葉低木。開花時は白色だが、時間がたつと薄いピンク色になる。
	カシワバアジサイ「ピーウィ」	直立性の落葉低木。パティオピンクに比べると花が小さく、ピンク色にならない。
	ガビサンイヌビワ	開張性の落葉低木。果実のように見える花囊が8月以降赤色に着色し、食べられる。
	サクラ「アーコレード」	直立性の落葉低木。春以降に伸長する新梢にも花を着け、春と秋の二季咲き性。
	トキワミツタ	直立性の落葉低木。花は球形の頭上花序を形成する。頭上花序のため、果実も集合して球形となり、鑑賞性がある。
	トムソソツタ	つる性。7月下旬～8月上旬に直径7mmほどの果実を着け、食べられる。10月下旬に鮮やかに紅葉する。
	ナナコバナ	開張性の落葉低木。開花以降、萼片が肥大・エンジ色に着色し、鑑賞性が高い。
	ハシバミ「ローテゼラーナス」	直立性の低木。成葉がチョコレート色で鑑賞性が高い。11月以降、落葉する。
	ハナスオウ (咲き分け)	直立性の落葉低木。1つの枝に白花と赤花を着ける。
	ハナナシ「キャピタル」	直立性の落葉中～低木。直径2～3cmの一般的な梨の花に似た小花を着ける。花の香りは殆ど無い。11月頃から鮮やかに紅葉する。
	ヒメレンギョウ「ボークルドール」	開張性の落葉低木。花形や花色は一般のレンギョウと同等だが、非常に低木(高さ30cm程度)である。
ブータンミズキ	直立性の落葉低木。直径3～4cmの花序が集まった集合花を着ける。11月下旬頃から葉が鮮やかに黄化する。	
マンサク「バージニア」	直立性の落葉低木。一般に流通しているマンサクに似た花を咲かすが、開花期が秋である。	
ヤマブキ「チバゴールド」	開張性の落葉低木。葉が薄黄(クリーム)色で希少性がある。強光下では葉が退色・落葉するため、日陰での管理が必要である。	
リオニア・マリアーナ	開張性の低木。釣鐘状の小花を多数着ける。10月中旬頃から紅葉するが、葉が厚いものは12月頃まで緑葉で残る。	

表3 新樹種の越冬性の評価及びコンテナ露地栽培の適性評価

常・落葉	樹種名	枯れ株数			障害株数		越冬性 評価	コンテナ 栽培適性
		平成22年2月	平成23年2月	平成24年3月	平成23年2月	平成24年3月		
常緑樹	ゴルトニア・コンキエシス	0/10	2/10	7/8	4/8	0/1	×	×
	ゴルトニア・ラシアンサス	0/10	2/10	6/8	0/8	0/2	×	×
	シナアベリア	0/10	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
	トキワマンサク(絞り)	-	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
	トゲナシピラカンサ「オレンジシルク」	0/10	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
	ヒイラギナンテン「コンフェューサ」	0/10	0/10	0/10	1/10	0/10	○	○
	ビワ「長崎一才」	0/10	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
落葉樹	エゾウラミサクラ	0/10	1/10	0/9	3/9	0/9	△	×
	黄金ショウキウツギ	0/10	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
	カンワバアジサイ「ピローウイ」	-	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
	カンワバアジサイ「ピンクパティオ」	-	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
	ガビサニスビワ	1/10	0/9	0/9	9/9	9/9	×	×
	サクラ「アコレート」	-	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
	トキワミツタ	10/10	-	-	-	-	×	×
	トムソングタ	0/10	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
	ナコハナ	0/9	1/9	1/9	0/8	0/8	○	○
	ニオニア・マリアーナ	0/10	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
	ハンバミ「ロゼベラナス」	0/10	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
	ハスオウ(咲き分け)	-	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
	ハナシ「キャピタル」	0/10	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
	ヒメレンギョウ「ホークルトール」	0/9	0/9	0/9	0/9	0/9	○	○
	フータンミズキ	0/10	1/10	0/9	0/9	0/9	○	○
	マンサク「ハートシニア」	0/10	0/10	0/10	0/10	0/10	○	○
ヤマブキ「チハゴールト」	-	0/3	0/3	0/3	0/3	○	○	
外気温		平成22年1月	平成22年2月	平成23年1月	平成23年2月	平成24年1月	平成24年2月	
平均気温(℃)		7.0	6.4	5.2	7.1	4.4	5.2	
最低気温(℃)		2.9	2.7	1.6	3.2	1.1	1.7	

- 1) 障害株数：枯れ株を除いた生存株の内、一部に枯れ等の障害のある株数
- 2) 越冬性評価：○；枯れ株数が少なく、障害発生も少ない △；枯れ株数は少ないが、年度によっては障害が発生する
×；枯れ株数が多い、もしくは障害が多発する
- 3) コンテナ栽培適性：○；コンテナ栽培に適している ×；コンテナ栽培に適していない
- 4) 外気温：千葉市（気象庁千葉气象台）

表4 新規導入樹種の挿し木による発根率

常・落葉	樹種名	発根率 (%)
常緑樹	シナアベリア	44
	トキワマンサク	69
	トゲナシピラカンサ「オレンジシルク」	98
	ヒイラギナンテン「コンフェューサ」	88
落葉樹	黄金ショウキウツギ	2
	トムソングタ	2
		(85)
	リオニア・マリアーナ	98

- 1) 上記以外の17樹種については、挿し木の確保が困難のため未調査
- 2) 挿し木条件
培土：赤土：ピートモス：粉状パーライト＝2：1：1とし、慣行性肥料（ロング180）を2g/L加えた
挿し穂の調整：1～2節に切り分けた
挿し床：上記培土を詰めた72穴セルトレイ
管理条件：70%遮光のミスト室で管理（10月以降挿し床を15℃加温）
- 3) 挿し木時期：平成22年7月8日、調査日：平成23年4月22日
- 4) トムソングタの括弧内は平成22年12月に挿し木した場合の数値

[発表及び関連文献]

[その他]

コンテナ栽培：容器栽培のこと。即ち、植木鉢等を用いて栽培を行うこと